

平成23年度 第2回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成23年10月26日(水) 午後2時30分～午後5時

◇ 会 場 熊谷図書館 集会室

◇ 出席者 (1) 出席委員  
内田一雄委員 松田昌雄委員 久保田洋子委員  
松山妙子委員 青木淳子委員 小笠原清春委員  
関口聡美委員 田島俊秀委員 坂西友秀委員  
小谷野幸夫委員 村田三恵委員

(2) 図書館職員

【県立浦和図書館】

小川館長 永作副館長 西島教育主幹 民本主席司書主幹  
荻原司書主幹

【県立熊谷図書館】

岸本館長 千吉良副館長 嶋村教育主幹 田沼担当課長

【県立久喜図書館】

橋本館長 豊崎副館長 伊藤教育主幹

◇ 会議次第

1 開 会 [熊谷図書館 嶋村教育主幹]

2 あいさつ 熊谷図書館 岸本館長

3 会長あいさつ

4 平成23年度第1回会議録報告

5 会議の公開について議決  
傍聴希望者なし

6 会議録署名委員の指名

会長が、松田委員と久保田委員を指名し、了承された。

7 議 事

(1) 「図書館と県民のつどい埼玉2011」について(報告)

[浦和図書館 荻原司書主幹]

資料1及び追加配布のチラシに基づき、開催期日、会場、記念講演会、講演会でのトークセッション、分科会及び展示の内容について説明

【質疑】

委 員／記念講演の申込期日が過ぎているが、追加応募はどのようにすればよいのか。  
事務局／締め切りは延長した。電話やFAXでの応募を受け付ける旨ホームページで広報している。

委 員／チラシの申込期間は訂正をしたのか。

事務局／チラシの訂正はせず、カウンターで職員が対応している。  
会 長／「図書館と県民のつどい」は毎年この時期に開催しているが、まだあまり知られていない。  
事務局／マスコミ等に記者発表もしているが、なかなか取り上げてもらえない。広報については検討していく余地がある。  
委 員／チラシが越谷市の生涯学習の冊子の中で紹介されていた。色々な市町村の広報紙で紹介するようにしたらよいのではないか。  
事務局／記念講演会のチラシは、お手元のチラシとは別に作成し、配布している。  
会 長／文学館の見学も兼ねて、皆さんも是非お出かけいただきたい。

(2)「はたらく気持ち応援フェア」について(報告)

[浦和図書館 民本主席司書主幹]

資料2及び追加配布のチラシに基づき、フェアの内容、開催期日、浦和図書館での開催状況について説明

【質疑】

委 員／入場者の年齢層はわかるのか。  
事務局／カウンセリングを受けている人については、お聞きしている。一番多いのは男性の60歳以上で再就職の相談が多いようだ。女性では20歳代が多い。一番少ないのは、30歳代後半の男性である。  
委 員／相談の内容も分かっているのか。カウンセリングだけでなく五百数十人来ているが、そのきっかけなどは。  
事務局／フェア会場の部屋とその手前のスペースに関連する本を並べている。部屋に入場された方と本を手にとった方の人数をカウントしている。カウンセリングを受けた方のみ、アンケートを実施して把握している。それ以外の方の年齢層や来たきっかけについては把握していない。  
委 員／今後、定期的あるいは常設としての開催又はコーナー設置という考えはあるのか。  
事務局／キャリアカウンセリング常設化の予定はない。このフェアのために揃えた資料は、浦和図書館の3階のビジネス支援コーナーに収める予定である。キャリアカウンセラーについては、同様の機会を設けるかどうかは、今後検討する。  
委 員／フェアは、資料もたくさんそろっている。読みやすい感じでブックトラックも配置してある。浦和図書館の3階のコーナーでは、ふらっと図書館に入って他の本を見ながら入るといった位置からは遠いと思う。今の場所は入口の近くにあって良い。場所の移動も考えていただけたらと思うが、いかがか。  
事務局／フェアを行っている場所は、図書館の資料を紹介する展示スペースを活用しているため、そのままコーナーにするには難しい。見ていただく工夫については、今後検討する。  
委 員／個々のフェアについては淡々とやればよいが、県立図書館が何を目指しているかということが前回の会議録からは見えてこない。3館と市町村立の図書館の役割分担、連携をどうしていくのかも含めてイメージが見えてこない。ITが普及して、国際的にも文字離れ、活字離れ、読書離れが進んでいく中で、待ち

の姿勢だけでなく、自分の方から出向いて読書の必要性を訴えて廻ろうとするなどの動きが見えない。やるべきことはどんどんやった上で、もっとベーシックな部分で県立図書館、市町村の図書館が何をしていくのかという部分を議論していくのが協議会の場ではないか。協議会は10年、20年の未来を見据えて、図書館の運営についてとことん議論する場だと思う。来た方を案内する待ちの姿勢ではなく、現在を分析してみて、優秀なスタッフもそろっているのだから出て行くということを今後展開していくべきではないか。

委員／同じ県の施設である創業ベンチャーセンターが新都心にあるが、そこで行っていることと図書館のやっていることの差別化が必要ではないか。創業・起業に関してはセンターに任せ、図書館は就職・転職の情報についてやるなど。

浦和図書館はセンターに場所が近いので、ビジネス支援は県北の熊谷図書館で行い、県南は新都心のセンターで行うという考え方もあるのかなと思う。

委員／はたらく気持ち応援フェアはいいと思う。図書館が働く分野まで踏み込む、展開するとは驚いた。幅広く行っていることに感心しているが、そこまで踏み込んでやっていくのがいいのか、継続的にやっていくのか、目標として何を目指してやっていくのか。

事務局／県立図書館が単に本を揃え、来館者に貸し、読んでいただくだけの場ではなく、これからどんどん外に出て行かなくてはならない部分もあると思う。平成20年度の有識者等の会議で今後の図書館像の提言が出された。提言の大きな柱の1つが「課題解決型の図書館を目指す」ということである。県立3館の具体的な取り組みが、ビジネス支援であり、健康医療情報サービスである。提言を生かして、今後の図書館をどうしていくのかというライフチャンスライブラリー化事業を県教育局で検討中である。次の予算での実現を私たちも期待している。例えばの話、3館ある図書館を統合して大きな図書館を構築するということになれば、まさにそれを転機として、更に進化した形での課題解決型の図書館を目指していくことになる。その際柱になるのが健康医療情報サービスであり、ビジネス支援であり、子ども読書サービスである。これは県立図書館がかなり外側に打って出ている部分であると思う。現在は、進行形の中の途中の段階だと思っている。

ビジネス支援も県民の皆様が抱えている課題の一つとして捉えている。経営のプロではないので、直接アドバイスできるわけではないが、入口として図書館を利用してもらい、プロにつなげていく役割を果たす。140万冊を超える本を活用して県民の皆様の課題解決を支援していきたい。ビジネス支援は、たくさんある課題の一つとして現在重点的に取り組んでいるものである。県民の皆様の課題解決に少しでもお役に立つ図書館でありたいということで取り組んでいる。

委員／3館の位置付けがあると思うが、ビジネス支援の中心は熊谷図書館か。

事務局／浦和図書館が中心である。浦和図書館がビジネス関係、久喜図書館が健康医療情報サービスや子ども読書サービス、熊谷図書館は海外資料、哲学、歴史などを分担している。

委員／ここまで働くということに図書館が関わっていることは、驚きである。有識者会議の提言があつて、自前でということだったと思うが、知事部局やハローワ

一ク、ニート対策での教育局からの働き掛けが根底にあってでてきたものと勝手に考えていたが、それとは全く別の動きで出てきているということが理解できた。私は教育関係なので、その立場で言うとエネルギー教育、環境教育、心の教育、生涯学習教育とか、特化した支援事業も今後視野に入れてもらえるとうれしい。

### (3) 県内公立図書館の状況について（報告）

[浦和図書館 荻原司書主幹]

資料3に基づき、県内公立図書館の数、資料費予算の推移、サービス実績について説明

#### 【質疑】

会 長／前年度比で図書館の数が増えているが、どこが増えたのか。

事務局／統合による廃止があった一方、分館の増加により結果的にプラスとなった。

委 員／未設置はどこか。

事務局／皆野町、長瀨町、松伏町及び神川町の4町である。

会 長／4町以外は図書館があり、資料費については若干減っている。現在の県内公共図書館のイメージをどう考えたらよいのか。

事務局／資料費減が貸出に影響を与えるのはもう少し後、ジワジワと影響が出てくると考えている。

委 員／未設置の町は巡回図書館のようなものを持っているのか、近隣の市町村と協力して巡回しているのか、フォロー的なものはあるのか。

事務局／未設置自治体に対して、配本所を設置して、熊谷図書館で定期的に資料援助を行っている。以前は移動図書館を運営していたが、現在は配本所に転換している。

委 員／インターネット閲覧は館内での利用か。

事務局／図書館で調べ物をする際に、図書の補完としてインターネットを閲覧できる端末を用意してサービスしている件数である。

委 員／インターネット閲覧利用は年々増えている。端末が足りない。ダウンロードやプリントアウトは可能なのか。

事務局／県立図書館ではインターネットの閲覧のみを認めている。ダウンロードやメールの利用はお断りしている。

委 員／リクエストがあれば資料の取り寄せは可能なのか。

事務局／ネット上で得た情報でのレファレンスや資料の問い合わせには対応している。

委 員／インターネットの閲覧とインターネットからの蔵書予約は別のものと考えている。ここでのインターネット閲覧利用サービスは、インターネット閲覧用のパソコンを利用している件数である。著作権法上の問題があるのでダウンロードやプリントアウトはお断りしている。

委 員／県の図書館が3館あって実績数値の低い市町村に、県立図書館は関わっているのか。

事務局／資料のサポートとしては、市町村では揃えにくい資料を県立図書館でカバーする必要があると考えている。

また、相互貸借という制度がある。資料費が減らされて従来どおり資料購入できない中、他の図書館から借りられる仕組みである。熊谷図書館が担当しているが、相互貸借の流通スピード向上が課題である。現状では週に1回各市町村を巡回しているが、週2回、3回への増加が可能か検討している。予算が減っている状況下で、新たな仕組みも含め検討している。

会 長／30年くらい前、市町村の図書館の草創期に、県立の移動図書館や職員派遣などがあった。今現在は4町が図書館を未設置だが、市においては100パーセントになっている。各自治体が責任を持って運営するのが原則だが、その不足を補う相互協力というネットワークを埼玉県はかなり早くから整備している。

委 員／県立と市町村間だけでなく幅広く大学にもネットワークを広げてもよいのではないか。

事務局／埼玉大学や県立大学にもネットワークに入ってもらい、相互貸借を行っている。また、他県の県立図書館や国立国会図書館とも相互貸借を行っている。

#### (4) 県立図書館ブログについて

[浦和図書館 荻原司書主幹]

県立図書館ブログの作成の経緯、掲載内容について説明

##### 【質疑】

会 長／ブログに掲載する記事は、当番制なのか。

事務局／週に1回、3館持ち回りでブログを更新する。

会 長／掲載する記事の内容は、担当者、担当館に任せているのか。

事務局／担当レベルで記事を作成し、アップしている。多様なものをご覧いただけるようにしている。

委 員／市町村の図書館ではブログというところまでいっているところはなかなかない。記事の文責はどのようになっているのか。

事務局／各掲載館の館長の決裁を得ている。

委 員／ブログには、カテゴリーを設定してあるのか。

事務局／設定してあるが、バリエーションは多くない。

委 員／今後も続けていってほしい。

会 長／県民からの反応はどうか。

事務局／スパムメール防止のため、ブログへのコメントは書き込みはできない設定にしている。

会 長／アクセスカウンターの数字はどうか。

事務局／7月からブログを開始し、職員閲覧分を除いても4000件に達していると思われる。

#### (5) 県立熊谷図書館のサービスについて

- ・ 県立図書館の多文化サービス

[熊谷図書館 栗原司書主幹]

資料4に基づき、海外資料コーナーの設置目的、蔵書数、利用状況、広報、翻訳ボランティアの活動、今年度の資料整備状況、今後の課題について説明

【質疑】

委員／図書館ホームページの多言語化について、検討しているのか。

事務局／具体的な検討は行っていない。ただいま提言があったので、課題としてまいりたい。

委員／雑誌など、外国人の方からリクエストはあるのか。

事務局／ある。リクエストがあれば検討し、可能なものは購入している。

委員／海外資料コーナーを設置したとき、外国人の方の意見を聴いて選書をおこなったのか。

事務局／意見は聴いていない。

委員／博物館で働いていたとき外国人の方の利用が多かった。近隣にある大学の留学生や実際に生活をしていて日本語を話せない外国人の方などから聞き取りを行ってから利用者が多くなったということがあった。選書からの情報発信ということも必要ではないかと思う。

委員／まず、館内の案内を更新していくときに多言語化、外国語並記とかを検討してもらったらよいかと思う。

会長／図書館だけでなく県庁全体でも課題となっていることだと思う。

委員／日本人の方の外国語資料の利用も多いのか。

事務局／利用している方もいる。利用者は固定化している。

委員／小学校でも英語の教育を行っているので、初歩的、かんたんな絵本、わかりやすい雑誌などを置いて、日本の子どもや一般の方などにも発信していけば、利用している外国の方と日本人の方と接する場にもなる。日本人にも利用しやすい外国語資料も揃えてもらえたらと思う。

事務局／外国語の資料の充実ということで、新刊だけでなく世界の教科書、日本文化を紹介する図書、国際理解に役立つ図書というものも揃えている。

委員／蔵書数には、児童室のものも含まれているのか。

事務局／含まれていない。海外資料コーナーに置いてあるものだけである。

委員／ポルトガル語の新聞がないが。

事務局／数年前まではあったが、廃刊になった。

会長／外国語資料担当者会も行っているようだが、多文化と名乗らないまでも市町村で似たようなサービスを行っているのか。

事務局／平成21年度に同様なサービスを行っているということで川口の中央図書館の方に説明してもらったことがある。

会長／市町村の実態の把握はしているのか。

事務局／平成17年度に県内公共図書館を対象に図書館多文化サービスの実態調査を行った。

会長／どれくらいの館でサービスをおこなっているのか。

事務局／手元に資料がないので、不明である。

会長／担当者会とは普及的な位置づけのものなのか。

事務局／市町村にも多文化サービスを行ってもらうための研修的な面も含んでいる。

会 長／県立図書館には市町村の指導的な面もあるかと思う。これからぜひお願いしたい。北浦和の埼玉県国際交流協会の図書室とかとの関係はどうか。

事務局／課題である。現在は研修会の実施と広報配布程度しかできていない。

委 員／蔵書についても3館で連携しているのか、他館も独自に揃えているのか。外国語のCDとかレコードなどはどこで揃えているのか。

事務局／図書と雑誌は、熊谷図書館の海外資料が担当しているが、外国語のCDなどは、熊谷図書館の視聴覚資料担当で収集している。

委 員／図書館では、外国語のCDなどの収集は多文化サービスとしては考えず、視聴覚資料サービスと考えているということだと思う。

#### ・熊谷図書館の協力業務

[熊谷図書館 安部司書主幹]

資料5に基づき、資料搬送業務、埼玉版ISBN総合目録など、熊谷図書館が実施している協力業務の概要について説明

#### 【質疑】

会 長／ISBNと横断検索について説明してほしい。

事務局／ISBNとは世界共通の番号で、本それぞれに固有の番号が割り振られている。蔵書データが電子化されているので、ISBNで本の検索をすることができる。横断検索とは、インターネット上に蔵書を公開している県内の公共図書館のどこに探している本があるかを調べることができるものである。

委 員／協力業務は県立図書館らしい仕事だと思う。市町村にとってなくなっては困るものだ。協力車は週1回となっているが、回数を増やしてもらえると市町村は大変助かる。利用者に1、2日で渡せるようになれば、非常に喜ばれる。

委 員／県立と市町村をネットワークで結んでいただいているが大変ありがたいが、類縁機関を増やすことができないのか。文書館や美術館、博物館の専門的なものも相互貸借や横断検索が可能であれば便利になると思う。

事務局／横断検索には、類縁機関の一部は入っている。現在の搬送方式では相互貸借のルートを増やすのは難しい状況である。搬送先を増やすべく、新方式の検討をしている。

委 員／博物館、美術館のものはデータベース化されているのか、貸出は行っているのか。

事務局／文書館のものはデータベース化されている。文書館のホームページから検索することができるが、貸出は行っていない。

委 員／貸出は行っていないなくてもどこの館がもっているかがかわれば、そこに見に行くこともできる。館内での閲覧は可能か。

事務局／館内閲覧は可能である。

委 員／一般の方は本を探す場合、図書館しか探さない。探す入口が広がれば広がるほど使いやすい。

委 員／博物館の資料などは、資料としての質が異なるのではないか。代替がきかないものである。図書館の検索システムとリンクさせるのは難しいのではないか。

職員間で交流があればどこに資料があるか案内ができるので、職員間の研修の問題になってくると思う。

委員／公民館や児童館の図書室との協力の窓口はどこか。

委員／市町村レベルの話だ。公民館の図書室は、市町村の図書館がデータ化している。図書館のサービスの一環となっている。児童館など生涯学習の施設ではないところは、独自のものとなっている可能性がある。

委員／単館所蔵については、重要な課題である。予算なし、スペースなし、これらはどこの図書館でも共通している。気がつけば本がなくなっているということも多い。1館しかもっていないものを残していくことは図書館の重要な機能だと思うので、ぜひお願いしたい。

会長／1つの館だけや県だけで行えるものでない。担当者会や図書館協会もある。重要課題として県内図書館全体できちんと考えていってほしい。

## (6) その他

- ・ 「川沿い散策マップ」について

〔熊谷図書館 渡辺専門員〕

熊谷図書館付近を流れる成田用水に沿って開催されている「川沿い作品展」と同展に協賛して熊谷図書館が作成した「川沿い散策マップ」の紹介を行った。

委員／いろんなことに挑戦していると思った。今までサービス向上の観点のみから話しをさせていただいたことを反省している。予算もどんどん削られている中で、事業のスクラップの視点を持っていなければならないと思っ

委員／「きっかけは図書館から」や「図書館で未来を開こう」とチラシにあるが、親が子どもを図書館に連れて行かなければ、子ども同士でいくことはないと思う。図書館だけの平面だけでなく、親や学校を組み込んだ立体的なネットワークがない。図書館を知らない、図書館を利用したことがないという人が多いと思う。何か仕掛けが必要ではないか。図書館に足を運んでもらう機会を増やすということが必要ではないか。親が連れてきて子どもが自然と図書館というものを認識する。もっと踏み込んだことも必要ではないか。

事務局／次回の協議会は久喜図書館で開催する。児童サービスの中心館なので、今のお話のようなことを紹介できると思う。学校での読み聞かせの疑問に答えたり、読み聞かせのスキルアップのための指導者派遣なども行っている。次回詳しくお話をしたい。

委員／東日本大震災の被災地支援について、何か進展はあったか。

事務局／双葉町の支援については、町の担当者と話したが、旧騎西高校の図書室も居室になっている。そこでの展開は難しいとのことだった。また、避難されてきている方は、加須市民と同様に加須市の図書館を使用できることになったと聞いている。

委員／ユニセフから子どもたちに本のプレゼントがあったと聞いている。今までは本を読むという余裕などなかったかもしれない。また、高齢者の方など、他のところに行くこともできない方もいる。加須市の図書館を市民同様に使用できる

といっても、交通の便が悪かったり、図書館まで行けない方もいる。そういった方に本を揃えていただけたら、避難所での生活も有意義に過ごせると思った。事務局／県立図書館としては、避難されてきている方に対しても県民と同じように御利用いただける体制を整えている。今後もできる範囲で力になってまいりたい。

議事終了

8 閉会

〔熊谷図書館 嶋村教育主幹〕

会議録署名

会 長 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印